

平成17年度及び平成18年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価の結果について

資料2

1 平成17年度食品健康影響評価技術研究課題

研究課題番号	研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
0501	環境化学物質の発がん性・遺伝毒性に関する検索法の確立と閾値の検討	津田洋幸	名古屋市立大学	平成17年度～19年度（3年間）	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成19年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0502	器具・容器包装に用いられる合成樹脂のリスク評価法に関する研究	広瀬明彦	国立医薬品食品衛生研究所	平成17年度～19年度（3年間）	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成19年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0503	BSEにおける脊柱・筋肉内神経組織のリスク評価と経口摂取βシート蛋白の体内動態	小野寺節	東京大学	平成17年度～19年度（3年間）	研究計画の改善が必要	研究計画の見直しを行い、リスク評価手法の開発に資する研究に集中して実施すること。平成19年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0504	多剤耐性サルモネラの食品を介した健康被害のリスク評価に関する研究	牧野壮一	帯広畜産大学	平成17年度～19年度（3年間）	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当であるが、と畜場の調査を充実させる等により、耐性菌入手にできる限りの努力をすること。平成19年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。その際には、耐性菌のリスク評価という視点に限定せず、食品由来病原微生物のリスク評価への影響という視点でとりまとめること。
0505	免疫細胞生物学的・構造生物学的手法を用いた食品成分のアレルギー発現性評価法の研究	八村敏志	東京大学	平成17年度～19年度（3年間）	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成19年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0506	定量的リスク評価に応用可能な手法の探索、分析及び開発に関する研究	春日文子	国立医薬品食品衛生研究所	平成17年度～19年度（3年間）	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成19年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0507	効果的な食品安全のリスクコミュニケーションのあり方に関する研究	関澤純	徳島大学	平成17年度～19年度（3年間）	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成19年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0508	食品災禍時のリスクコミュニケーションの実態調査（風評被害を含む）及び災禍の性格分類	今村知明	東京大学	平成17年度～19年度（3年間）	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成19年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。

## 2 平成18年度食品健康影響評価技術研究課題

研究課題番号	研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
0601	メチル水銀とダイオキシンの複合曝露による次世代の高次脳機能のリスク評価手法	遠山千春	東京大学	平成18年度～20年度 (3年間)	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0602	一般集団およびハイリスク集団への食品中有害物質の曝露評価手法の開発	香山不二雄	自治医科大学	平成18年度～20年度 (3年間)	研究計画の改善が必要	当初計画どおりの研究成果が得られていない。配分額の範囲内で調査の方法を再検討すること。
0603	BSEのリスク評価とサーベイランスの効果的手法の研究：北海道の場合	門平睦代	帯広畜産大学	平成18年度～20年度 (3年間)	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0604	vCJDリスク評価のための効果的BSEサーベイランス手法に関する研究	山本茂貴	国立医薬品食品衛生研究所	平成18年度～20年度 (3年間)	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0605	非加熱喫食食品から検出されるリステリア・モノサイトゲネスのリスク評価に関する研究	藤井建夫	東京海洋大学	平成18年度～20年度 (3年間)	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0606	生食用カキに起因するノロウイルスリスク評価に関する研究	西尾治	国立感染症研究所	平成18年度～20年度 (3年間)	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0607	いわゆる新開発食品等の安全性評価法の開発に資する生体反応メカニズム研究	菅野純	国立医薬品食品衛生研究所	平成18年度～20年度 (3年間)	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。
0608	双方向情報交換実験によるIT活用型リスクコミュニケーション手法に関する研究	中嶋康博	東京大学	平成18年度～19年度 (2年間)	継続	概ね計画通り実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当であるが、アンケート内容については十分検討し、実施すること。また、対象者年齢の分布を明確にすること。平成19年度は最終年度となることから、2年間のまとめを確実にすること。